

# 令和4年度地域の絆づくり事業 第1回講座

## 新たな「自分」や「仲間」との出会い

令和4(2022)年7月29日(土) 10:00~12:00

創 -Hajime cafe- (参加者 15名)

### 1. 野中康寛さん、山崎由可里さんのお話

<野中さんの取組>

#### ○みんなが十分に自己表現できる居場所づくり

- ・学童保育での勤務経験から、不登校の課題を何とかできないか考えていた。
- ・「何かわからない不安」を解消するために、不登校支援を始めた。



#### ○「福祉」とは？

- ・福祉 = 二重の幸せを保証すること  
「福：幸せ」、「祉：天からの授かりもの、幸い」
  - ①安心して生きていけることを保証(憲法第25条 生存権)
  - ②その人の活動が認められ、生き生きと活動できることを保証
- ・二重の幸せの実現をめざすのが福祉である。

#### ○麦の郷の歴史

- ・働く場所であり、住む場所、活動できる場所、相談できる場所である。
- ・養護学校(特別支援学校)中等部を卒業したあとの居場所がなくなった。
- ・自殺する人もおり、全国的に共同作業所運動が起こった。

#### ○旧「優生保護法」(1996年まで)の影響

- ・障害や病気があれば、子供を産めなくする手術をしてもよい、という法律。
- ・「障害のある人 = 不必要」という位置づけが植えつけられてきた。
- ・結果として、不登校や精神疾患などの人の居場所が少なくなっている。  
→障害者の生涯学習が点であり、線になっていない。(山崎さん)

#### ○「引きこもり」とPo-Zkkの活動

- ・「引きこもり」 = 当人の状態  
風邪をひく、お腹が痛くなる、と同じ。

- ・引きこもり状態が続くと自分探しが不十分になり、自己否定の呪縛に憑りつかれる。自分自身の存在が消え、インターネットなど、外から借り物を連れてくる。何が自分かわからなくなり、崩壊していく。
- ・カフェで働く人はいろいろな生きづらさを抱えている。
- ・課題に向き合って、一緒に考え、改善していく。  
→一緒に病院へ行く、買い物に行くなど、それぞれが抱える不安に寄り添いながら。改善のために、居場所が重要。
- ・Po-Zkkは表現することを仕事にする場所。  
日本には、障害のある人のプロダクション（芸術の仕事をするところ）が1か所しかない。だからPo-Zkkを設立した。
- ・ただただそこで過ごしているのはもったいない。  
「働くだけ」では働き続けられない。  
→余暇の充実を保证したい、と考え、「ゆめ・やりたいこと実現センター」を設置。
- ・ANEW（アニュー）の開設。  
鬱やメンタルヘルスに問題がある人たちが、農業をとおして心と体を回復させていけるようにする取組。

#### <山崎さんのお話>

##### ○旧「優生保護法」の影響

- ・本人の知らないところで手術が行われるなどの人権侵害があった。  
→自然とそういう流れになってしまった。（野中さん）
- ・精神障害者に対して、3親等まで管理するような法律があった。
- ・精神障害があつたら労働能力がない、と当時の医師から言われる状態だった。

##### ○野中さんの取組の意義

- ・麦の郷のキャッチフレーズは「ほっとけやん」
- ・福祉の枠内ではあるが、教育の意味合いもある。
- ・精神疾患があつた人が、「ゆめ・やりたいこと実現センター」に来て話をするすることで、医療ではできないことができるようになった。
- ・みんな居場所を求めている。  
きっかけとして、行政が手を差し伸べることが大切。

##### ○大学の最初の授業で何を伝えるか

- ・「障害とは何か」  
その人が困っているのを放置するのではなく、寄り添う。  
そのための社会を整備する。
- ・「障害の見方を考える」  
障害のある人も社会の一員である。楽しみも平等にある。

### ○地域の絆づくりの意義

- ・絆をつくること＝相手を知っていくこと
- ・障害者と人権の話題の中にある壁を知ること
- ・単に生産性を高めていくのではなく、多様性を認めていく。  
障害のある人には、ユニークな発想がある。  
生産性や効率性は、誰かを排除することになる。  
多様な人を排除しないことが、どんな人も社会に貢献できることにつながる。

## 2. 座談会

○居場所の「居」の漢字を自分が大切にしているものの「い」の漢字に変えて、参加者の皆さんに発表していただきました。

- ・「胃」場所 食べ物は、気持ちがいいし精神状態も落ち着く。胃を満足させることは、誰にもあてはまる。
- ・「異」場所 みんながいろいろな意見や考え方を持っており、それを豊かにする場所。
- ・「良」場所 安心できて強制されない場所、選んでいける場所、自分のしたいことができる場所、あそこへ行けたらいいと思える場所、自分らしく過ごせる場所、仲間の居る場所。これらすべてがいい場所。
- ・「困」場所 困いの中（職場、学校など）など今、自分がいる場所。その場所で楽しい空間を作る。
- ・「井」場所 井戸端会議などそこに行けば、みんなが笑いあえる場所。
- ・「活」場所 生き活きとしている場所。
- ・「一」場所 障害の有無にかかわらず一人の人が自分らしくいられる場所。
- ・「入」場所 入っていきやすい、入れてもらいやすい場所。
- ・「委」場所 心も体も解放される。安心していることができる場所。
- ・「糸」場所 制服は、画一的というところで、こうでなければならないというものであるが、今日の参加は、みんな違う服を着ており多様性がある。



## 3. 振り返りシートから

### ○今日の講座で得た「学び」と「つながり」

- ・「自分が自分であっていい」そんなことを考え、感じるのが居場所であると思います。地域にこのような場所がたくさんあればいいなと思いました。
- ・地域の方のお話を直接うかがうことがなかったので、行政ではサポートしきれない、できない所を支えてくれているのだなと思いました。野中さまも、様々なつながりで

今のことをされているのだな～、と改めて思いました。地域の方にとってもありがたいつながりだと思いました。

- ・障害のある方の人権は、最近まで、しかも法律で侵害されていたことに驚きました。  
（それを学ぶチャンスが義務教育中にあれば、今回のような座談会の形で、子供たちも障害に対する理解が深まると思います。）
- ・地域にすごい人がたくさんいるということ。いろんな人が活躍すると、とても面白い。
- ・多様性を認めることの重要性、排除しないことの大切さを学びました。
- ・改めて、それぞれの人にとっての居心地のいい居場所が必要だということをおもいました。「自分は自分であっていいんだ」という思いを、誰もがもてるといいな～、と思えます。
- ・福祉の立場を「拡大解釈」して教育の現場に取り組んだ旨のお話をうかがいました。私も「社会教育」の知見を「職業訓練」に応用できないか、との意識をもっています。
- ・「福・祉」という二重の幸せを重ねることの重要性がステキだと思えました。
- ・活動が保障されることが「祉」の意味であったことを学ぶことができたので、今一度それについて考えてみようと思えました。
- ・人権について、改めて考えさせられる講座でした。違う部分を見るのではなく、同じ一人の人間としてかわることが必要であること、それに気づく環境が少なく、まだ自分とは違う人間だと思っている人が多いこと、どうすればお互いをつなぐことができるのか、沢山のことを考えました。誰もが同じ立場で、何も変わらないと気づく機会を、この講座を受けた人から周りの人へつなげることで、つながりを広げていけるとよいと思えます。

#### ○「学び」や「つながり」をどのように活かしていきたいか

- ・居場所（仲間・空間・場所）があることで、自分と向かい合うことができると実感している。個性や生き方を尊重できるように、またそれぞれの人生が豊かになるようにサポートしていきたいです。
- ・知ってはいても、それについて考え、行動できるかどうかは難しいと思いますが、野中さんは実現されていっているのだから、その行動力を見習いたいと感じました。また、「生きづらさ」を知ってもらおうよう、発信していくことも大事だと感じました。
- ・ワークショップで居場所の「居」をみんなで考えた時に、様々な「い」が出てきました。20名前後で考えただけでも、いろいろな「い」があり、考えがありました。アイデアは一人で考えるだけでなく、たくさんの方と学びあうことが大切だと改めて思いました。積極的に地域の方のお話をうかがえたらと思えます。
- ・職場、地域、学校など、いろいろな場所に居場所をつくっていききたいし、居場所にかえていきたい。
- ・障害の有無に関わらず、誰もがそこに居て良いんだ、必要とされているんだと感じ

られるような場所や存在でありたいと思いました。

- ・一緒に、ということではなく、誰もが、という意味で、子供とともに大人が勉強できる機会をつくってみたい。もの知りの教育は多いが、考える教育は少ないように感じます。
- ・無関心やつながりが希薄になっている社会で、ほっとけやん社会の実現に向けて、行政として多様性を認めることの重要性の広報が必要と感じました。
- ・居場所の大切さを改めて痛感させられました。安心できる場所、強制ではなく行ける（自分で選んで行ける）場所、自分らしくいられる場所、仲間のいる場所、自分のしたいことができる場所があればいいなあ、と思います。
- ・公民館のフリースペースを使い、社会福祉協議会や包括支援センター等と協力しながら、居場所づくりを進めていきたいです。
- ・紀の川市の公民館講座という事業で、今年度から、障害をもつ方を対象にしたウクレレ教室や書道教室、料理教室などを行っています。一度見学に行かせていただいた際、参加されている方がとても生き生きとされているのを見ました。今回のお話からも感じた、「働くためのエネルギーをたくわえるための、余暇、楽しみ」を得る機会が用意されていない社会から脱却するため、より充実した講座を企画していきたいと思います。
- ・アイデアは思い浮かびませんが、障害のある方たちにも、もっと見える所へ出て欲しいと希望します。

